

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察注意報について

平成 30 年度病害虫発生予察注意報第 2 号を公表したので送付します。

平成 30 年度病害虫発生予察注意報第 2 号

- 1 作物名 さとうきび
- 2 害虫名 バッタ・イナゴ類 (ヒゲマダライナゴ)
- 3 発生地域 八重山群島

4 注意報発令の根拠

- (1) 石垣島における 7 月中旬の調査の結果、新植夏植ほ場における成虫数は 1m^2 あたり 0.4 頭 (平年 0.1 頭未満) と平年より多く (図 1)、このうち北部地域の一部ほ場で多発生が確認された。多発ほ場の成虫数は 1m^2 あたり 1.4~2.4 頭で、虫種の 96.8% がヒゲマダライナゴであった。

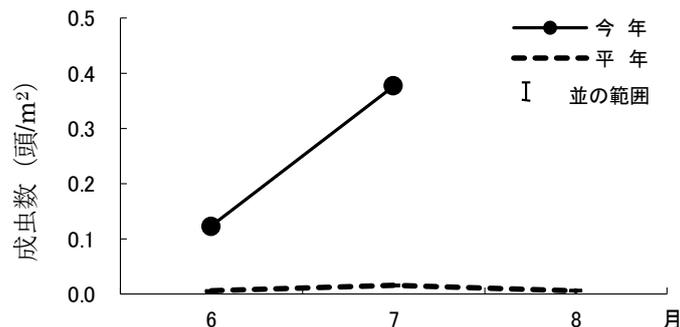


図 1 バッタ・イナゴ類の発生推移 (石垣市)

- (2) 与那国島における 7 月上旬の調査の結果、新植夏植及び株出ほ場におけるヒゲマダライナゴ成虫数は 1m^2 あたり 1.2 頭 (畦 30m あたり 50.1 頭) で、最も多いほ場では 2.0 頭 (同 83.5 頭) であった。
- (3) 関係機関の調査によると、与那国島の新植夏植及び株出ほ場における 6 月下旬のヒゲマダライナゴ成虫・幼虫数は 1m^2 あたり 2.0 頭 (同 85.2 頭) であった。
- (4) 関係機関からの報告によると、小浜島の新植夏植及び株出ほ場の一部で、5 月下旬からヒゲマダライナゴの多発生が確認されている。

5 発生生態および被害

- (1) 本種は体長 40~70mm の大型のバッタであり、触覚は黑白のまだらで、体色は淡緑色で光沢があり、前胸背の横溝が黒く明瞭である (図 2)。幼虫は体色変異があり、若齢期は薄褐色だが、齢期が進むにつれて薄緑色になる (図 3)。発生は年一化性で、幼虫は 5 月から、成虫は 6~10 月にかけて出現する。
- (2) 成虫、幼虫とも群れる習性があり、タイワンツチイナゴやトノサマバッタに比べて飛翔能力が劣るため、局所的に多発生することが多い (図 4)。

- (3) 多発すると葉の中肋を残して食い尽くされ、甚大な被害を及ぼす(図5)。さとうきび以外にも、ほ場周辺のイネ科の牧草や雑草を摂食する。
- (4) 卵期に干ばつが続くと多発しやすい。
- (5) 国内では宮古・八重山群島、海外では台湾、中国、ベトナム、タイ、インドで分布が確認されている。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 株出ほ場では、収穫後に畝間を耕うんし、卵塊を破壊する。
- (2) ほ場周辺のイネ科雑草は若齢幼虫の好適な餌となるので、除草を徹底する。
- (3) ほ場周辺のイネ科牧草で幼虫の多発が見られる場合は、刈り取り回数を増やすなどして物理的防除に努める。
- (4) 孵化が短期間に起こる性質があるので、若齢幼虫の集団を発見したら速やかに薬剤防除を行う。
- (5) 成虫の防除は、活動の鈍い早朝に一斉に行うのが効果的である。
- (6) 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意する。



図2 成虫



図3 若齢幼虫と卵



図4 ほ場内に群れる成虫



図5 中肋を残し食害されたサトウキビの葉

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>